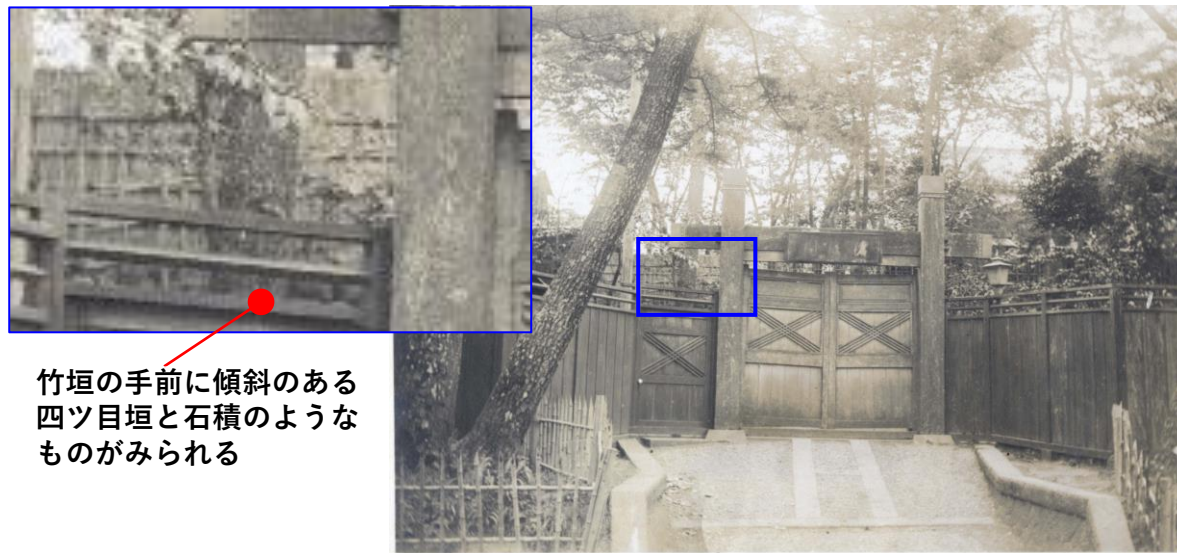
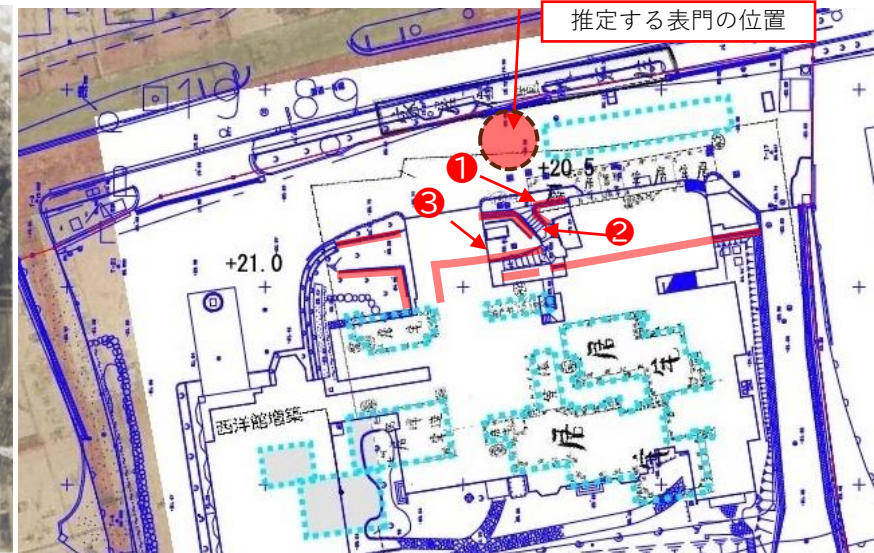


## 北側通用階段、マツの歴史について



竹垣の手前に傾斜のある四ツ目垣と石積のようなものがみられる



推定する表門の位置

古地図、家屋台帳を現況図に重ねた図

■ 伊藤博文邸30年家屋台帳（大磯町立図書館所蔵）の建物 ■ 現存する石積位置

表門は街道から高い所にあり、「滄浪閣」の扁額がかかる黒塗りの冠木門である。右奥に洋館の屋根が見える。

大磯旧滄浪閣（明治末期～大正）（大磯町立図書館所蔵）

滄浪閣の表門があったと推測する位置から2,3間（4,5m）奥に階段と石積がある。（①、②、③）  
李王家別邸の時代には、執事室につながる男道と女中室につながる女道の二つに分かれる通用階段があったといわれている。



① 通用階段横の石積 1



② 通用階段



③ 通用階段横の石積 2

滄浪閣（伊藤博文邸）に関する記述

- ・ 侯爵邸の門は黒塗りで、二三軒の続き長屋があり、武者窓もあって、一見昔風の構造で、大名のお下屋敷といふ態がある、**門を入れれば石の段もあり**、又小門もある。  
「名流談海」(1899)大橋又太郎・博文館
- ・ 表門は・・・略・・・東海道の本途の砂塵が、両側にまばらに立ち残って居る老松に煽り樹って、馬子唄も鄙びた街道にスグ面して、極めて無造作に往来を眺めて居る。門ソレ自身が既に随分粗末なものであるが、而も其の門には墨痕淋漓たる故李鴻章の『滄浪閣』と誌した扁額が掲げられて居る。此の表門から奥へ僅か二三間、**簡単な石畳が有って、直ちに滄浪閣西洋館の玄関に通ずる。**

「太陽第十五巻第十五号-臨時増刊伊藤博文公」(1909.11) 博文館

<明治期頃>

滄浪閣前の松並木と街道



(行發屋画) (一其) 滄浪閣 (景風戦大)

絵はがき大磯風景 滄浪閣(其一) (明治末期~大正初期) (大磯町郷土資料館所蔵)

<昭和30年代>

商業施設(ホテル滄浪閣)



▼通用階段付近のマツ

(大磯町郷土資料館所蔵)

<現在(令和2年)>

▼通用階段付近のマツ



邸宅に松の大木が数本残る



マツ

滄浪閣(洋館) (年代不明) (大磯町郷土資料館所蔵)



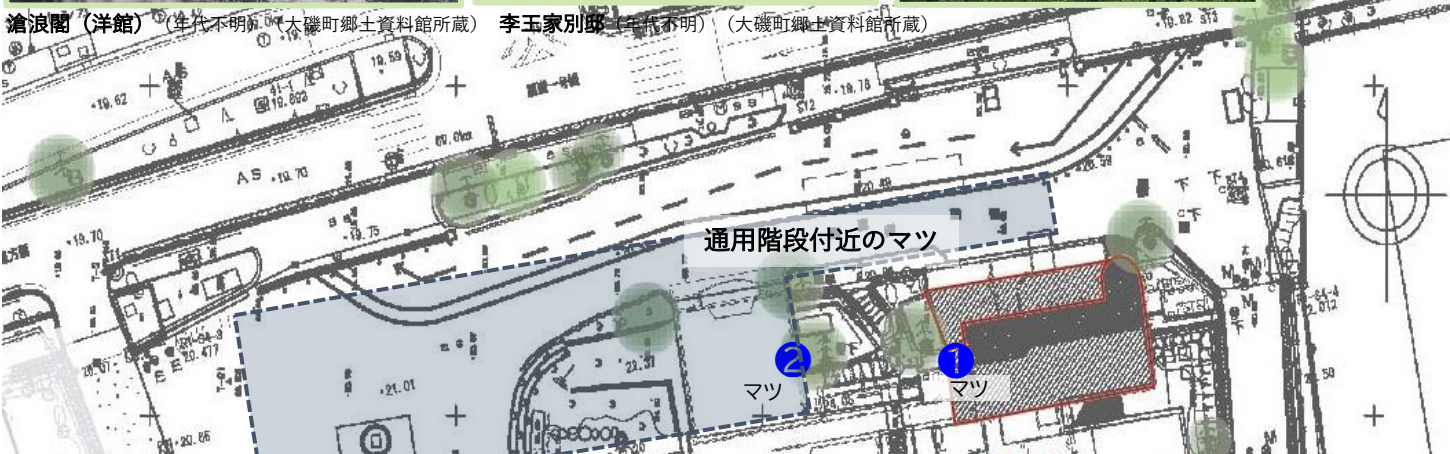
マツ

李王家別邸(年代不明) (大磯町郷土資料館所蔵)



マツ

李王家別邸(年代不明) (大磯町郷土資料館所蔵)



通用階段付近のマツ

マツ

マツ

現在旧滄浪閣の前は松の大木がない。旧滄浪閣の北側に残るマツの大木は、伊藤博文邸や李王家別邸の時代や、明治期からの東海道の松並木を彷彿させるものとして貴重。



① 旧ホール棟側のマツ



② チャペル側のマツ